男女がともに輝くために

共に輝くみほの会
－美浦村女性行政推進協議会－

問合せ　企画財政課
☎029－885－0340（内）208

高校生の実践から学ぶこと

小峯　久美子

毎年夏休みに、全国高等学校家庭クラブ研究発表大会が開催されています。今回は山口県の高校2年生（共働きの両親と大学生の兄との4人家族）の発表をご紹介します。

我が家の意識改革
～男女共同参画家庭を目指して～

▼現状

家庭科の授業で、「家族と家庭生活」について学び、「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方に賛成する人は、国民の半数近くを占めており、こういった意識が女性のM字型雇用や男性の長時間労働につながることを知りました。共働きの我が家でも例外ではありません。その理由の一つとして、両親の高校時代には、家庭科は「女子だけが学ぶ教科」として位置づけられており、性別役割分業意識をごく当たり前に受け入れてきた世代であることです。

▼目的

家族の意識改革を行い、家族で家事シェアを実現し、母が頑張らなくても、ゆとりある「私たちらしい暮らし」を目指したい。

▼実態

①思いつく限りの家事を挙げる⇓炊事・掃除・洗濯以外にも回覧板を回す、カーテンを開ける等、その数全部で82個！そのほとんどを担っているのは母でした。

②学校で調査する⇓86％が性別役割分業意識には反対と答えたものの、家事を主にしているのは母親で、家にいるのが理想だと考えています。理由として「その方が子どもの成長にとってよいから」等が挙げられ、家庭科の学習を通じて概念としての理解は進んでいても、意識と行動には隔たりがあることが分かります。

▼実践

①母が帰宅後に行う家事を家族でシェアする⇓家事分担表を作成して「夜家事シェア」を行う

②翌日への申し送り事項を書く⇓伝言板の作成

③市から借りた男女共同参画カルタを楽しむ

④自分の担当家事を決め、実施後マークする方式へ転換

⑤「お母さんリフレッシュデイ」の取り組み　等

◆感想

父には、家事が上手にできないから消極的だった一面もありました。「弁当の作り置きおかず」や「常備食材の冷凍保存」等みんなで取り組み、取り組みながらできるようになり、家族が支え合える素晴らしさを共感しました。しかし、協力的な私たちの家族ですら、どこかまだ「母の役割としての家事を皆で分け合い、負担を軽くしてあげたい」という考え方をしています。

私たち家族もそうだったように、人の意識の変容に果たす教育の意義は大きいと思います。私の今後の生き方を考えるきっかけにもなりました。

こうした取組の積み重ねにより、男女共同参画社会の実現へ近づく期待を持ちました。

みほ文芸

正調俚謡　日和吟社　字結び「再・会」（一字以上詠み込み）

無念会えずに旅立つ父の意志を受け継ぐ拉致家族　沼嵜朋香
十四初恋七十過ぎて嬉し再会片思い　酒川夢花
やっと会えてもふれあい禁止恋の邪魔するコロナ菌　石戸葎華
会えて嬉しい変わらぬ雅友の声が聞こえる俚謡の会　高橋一歩
めぐみさんとの再会出来ず妻に託して逝く無念　篠原美千代
人種差別に社会が揺らぐ世界各地で抗議デモ　田島草実
会わずじまいの城山名花初夏の藤棚涼し影　門脇悠美
母は今頃どこ吹く風か夢で会いたいあの笑顔　小池きよし
コロナ収まり再び元の何気ない日のありがたさ　山崎笑子
絶えぬコロナに打ち勝つ迄はマスク外せぬ俚謡の会　飯塚筑風
空の軒の巣今年はまだかここを忘れず会いに来て　関根秀子
会えぬ辛さを堪えて受話器声で繋いだ愛し貴方　長谷川悦子
再起願って踏み出す一歩風と光の中に立つ　塚本夏雲
姉妹三人再会久し話尽きない父母語る　山岸錦洋
姉の便りは甘酢のラッキョ食べて会いたい母思う　山崎泰弘
自粛ゆるんで心が躍る会える喜び俚謡会　伊藤葉子
自衛自粛と晴れない心かわいマスクで俚謡会　木村幸子
絆結んだ会えない人の笑顔浮かべて草むしり　上野八千代
この娘かわいや再会願い拉致と向きあう五十年　増尾青蓮
再度休みにへとへとしてる家庭大変コロナ禍で　井戸賀龢道

六月の俳句（題　当季雑詠）

見えぬものに恐れる日々や四葩咲く　青野安佐子
笛吹いてコロナ退治の五月来る　石毛恵美子
春うらら誘うひとなしに日の暮れる　市川紀行
若葉冷えポイ捨てマスク田舎道　海道民子
万緑や自粛静寂惜しむ声　木澤はしめ
桜見に今来しばかりの初燕　高柳幸子
豆飯の香りや亡夫のあの笑顔　田島早苗
ウォーキング蚊取線香腰で揺れ　中島輝子
アイスティー今日も無言のテレワーク　長田敏笑
女子会のシャンパンの栓朴を越す　増尾尚子
向い風葭切の声背に受けて　松葉蝶駿
母の日や呼べば声わき姿浮く　松葉よしゐ
覚えては忘る花の名昼寝覚め　松本秀子
猫匍匐鼻先舞うや黒揚羽　宮﨑きみ江

（五十音順）